

環境と社会と経済の相乗効果



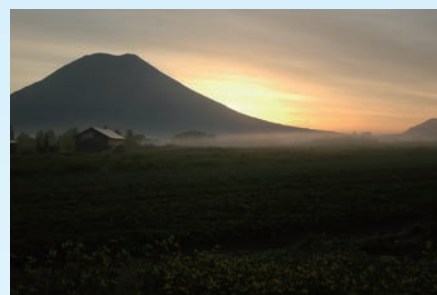
持続可能な開発目標

2015年9月の国連サミットで、全会一致採択された『持続可能な開発のための2030行動計画』に記載された、2016年から2030年までの国際目標のこと。持続可能な世界を実現するための17のゴール(目標)と関連する169のターゲットから構成され、地球上の誰ひとりとして取り残さないことを誓っています。この目標は、実は日々の私たちの暮らしに密接に関連しており、ローカルな地域課題の解決に貢献し、持続可能なまちづくりを推進するものです。



NISEKO 生活・モデル地区

SDGs未来都市におけるモデル事業として、市街地近郊に「ニセコ町らしい」暮らしを体现した、持続可能な生活空間であるモデル地区を形成します。SDGsの理念を踏まえたモデル地区によって、地域経済の活性化に資する環境配慮型住宅の建設、人口増加に伴う住宅不足の解消、ヒートショックの予防と域外流出しているエネルギーコストの削減、本町ゆかりの作家有島武郎の遺訓「相互扶助」が息づく活発な自治活動、などを進め、ブランド価値を高め、住みたくなるまちニセコをより一層強化します。



30年後のニセコ町の
価値を高めるため
今を生きる
私たちが出来る事

Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow.
過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ。
The important thing is not to stop questioning.
大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである。
Anyone who has never made a mistake has never tried anything new.
失敗を経験したことがないという者は、何も新しいことに挑戦したことがない者であろう。
Life is like riding a bicycle. To keep your balance you must keep moving.
人生というのは自転車に乗って走るようなものである。バランスをとるには進み続けるしかないのだ。
Albert Einstein
アインシュタイン

一人ひとりが自ら考え行動する 未来に挑戦するニセコ町

ニセコ町では、私たちの町の憲法「ニセコ町まちづくり基本条例」を最高法規に、環境基本条例、景観条例や環境基本計画、省・新エネルギービジョン等の諸計画を体系化し、「資源・エネルギー・経済の三つの循環」による「循環共生社会」を目指し、自治創生に取り組んできました。水環境の保全等の厳しい規制による乱開発抑止政策は、「共感」に基づく良好な暮らしの空間を生みつつあります。

この第2次環境モデル都市アクションプランは、第1次アクションプランを検証のうえ、経済指標や統計数値などの根拠を精査、ワークショップ、町民アンケート、まちづくり町民講座や環境審議会等々、数々の公開での議論を積み重ねて誕生したものです。地球環境負荷の低減は、待ったなしの課題です。私たちには、「より良い環境を未来の子どもたちに残す」責任があります。

今こそ、勇気を持って行動しましょう！

ニセコ町長 片山健也

環境モデル都市 Eco Model City

北海道ニセコ町役場 企画環境課環境モデル都市推進係

〒048-1595 ニセコ町字富士見 47 番地
Tel 0136-44-2121 Fax 0136-44-3500
https://www.town.niseko.lg.jp/chosei/kankyo/model/
e-mail kankyo-e@town.niseko.lg.jp



ニセコ町の
未来をつくる

この町の魅力は
言葉だけでは
表せない

2015年の温室効果ガス排出量から
2050年までに
CO2排出量 **86%**削減

この高い目標に挑戦する。大切なのは目標を見据え行動する事。
ニセコ町の価値を高めるために。

環境モデル都市ニセコ

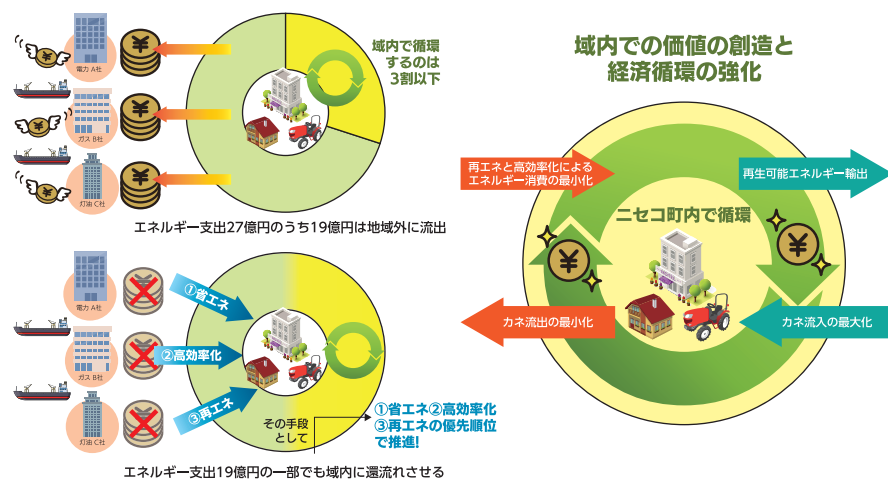
2014年3月にニセコ町は国から、町民主導による活動と地域特性を生かした実現性の高い取組の提案、観光都市としての先導的な取組が期待され、環境モデル都市に選定されました。

低炭素化と持続可能な発展の両立を目指して、地域資源を最大限活用し、先駆的な取組に挑戦する環境モデル都市は、2018年現在、全国23都市(北海道では帯広市、下川町、ニセコ町)が選ばれています。

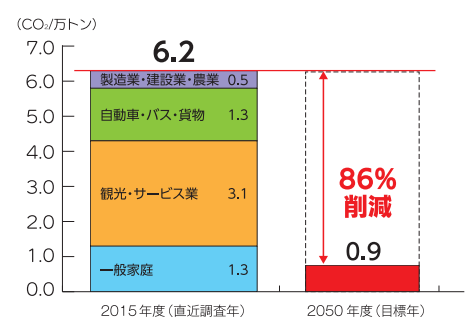
人口：4,958人(2015年国勢調査)
世帯：2,274世帯(2015年国勢調査)
基幹産業：観光・農業
観光客数：167万人(2017年度)
面積：197.13km²
高齢化率：25%

ニセコ町が目指す地域内経済循環

- ニセコ町の世帯数2,274×年間エネルギー支出40万円=9億円(1世帯あたりの年間エネルギー支出40万円とする)
- エネルギー販売上高(業務・産業含む)9億円×3倍=27億円(業務・産業で家庭の2倍を支出)
- 域外からのエネルギー輸入額27億円×7割=19.2億円(8億円は町内のGDP増加に)



ニセコ町の温室効果ガス削減目標



アクションプランの基本目標は「住民一人当たりの経済活動の活性化とCO2削減の両立」です。現在の世代の欲求を満たしつつ、将来世代の生活基盤を保障するために、持続可能な発展(Sustainable Development)を合言葉に、真に「環境モデル都市」としてふさわしい自治体を目指します。

2014年スタート
ニセコは環境モデル都市
CO2を2050年まで
86%減少!
が目標

野心的な目標設定です!

2014年~2018年
省エネ・エコの取り組みが必要

ニセコこども館省エネ建築工事
地中熱ヒートポンプ導入
町民エコ運動!

第1次環境モデル都市
アクションプラン

でも人口も
観光客、開発も
増えってる



多くの方がニセコ町へ!
ただ、人が来ればくるほど...

2018年
このままだと
CO2を減らす
どころか
増える一方

経済が豊かになれば別に
変わんなくてもいいんじゃない?

自然環境が崩れ
町の魅力が無くなる
ニセコの価値を
失うかも...

やらないと
良くなる事
はない

将来も
不安だし...

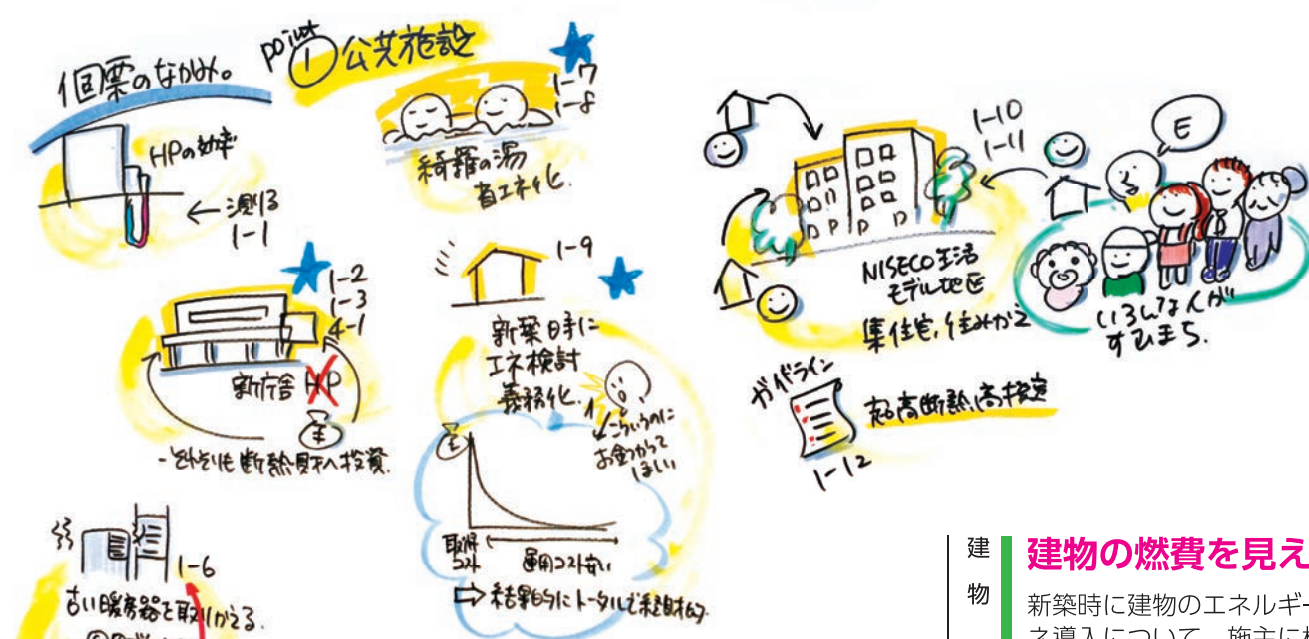
私の好きな町
ニセコへの
想い

地域の声を
聞いて
考えました

地域の夢を乗せて
持続可能な発展を!
SDGs未来都市
ニセコ町

<https://www.town.niseko.lg.jp/chosei/kankyomodel/>
詳しくはニセコ町ホームページ
「環境モデル都市」をご覧ください。

2019年~ 第2次 環境モデル都市アクションプラン



次世代の超省エネ施設への挑戦。まず役場新庁舎から

域外に流出するエネルギーコストを最小化するため、超省エネ庁舎を新築。また、LPGコージェネによるヒートセンターを設置し、周辺施設への面的な熱供給に挑戦。エネルギー価格の影響や災害時に必要な電源を最小化できます。



建物の省エネ化、改修を公共から率先してはじめる

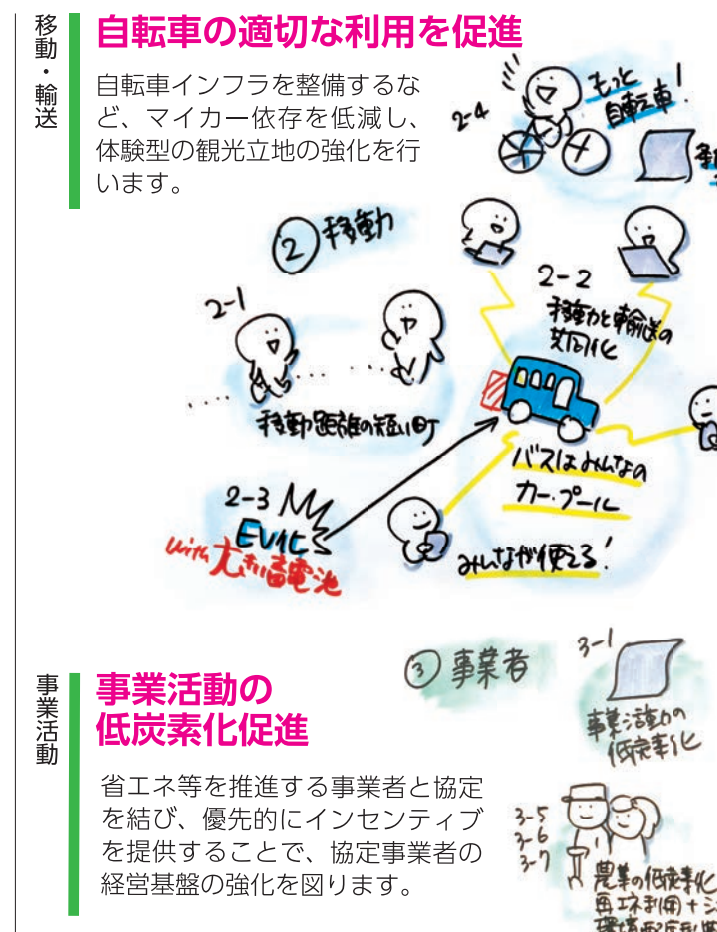
公営住宅の設備を省エネ型に順次交換し、綺羅乃湯でも設備、窓の省エネ化を実施。町民の家計と公共予算の節約を目指します。

いま、ニセコ町の未来をつくる

環境+経済
持続可能な町へ

自転車の適切な利用を促進

自転車インフラを整備するなど、マイカー依存を低減し、体験型の観光立地の強化を行います。



事業活動の低炭素化促進

省エネ等を推進する事業者と協定を結び、優先的にインセンティブを提供することで、協定事業者の経営基盤の強化を図ります。

建物の燃費を見える化する

新築時に建物のエネルギー性能・再エネ導入について、施主に検討を義務づけることで、建設費と光熱費のトータルで安価になる建物を推進します。

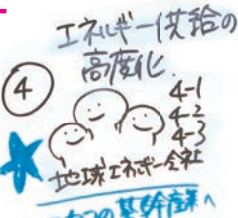
NISEKO 生活モデル地区構想事業

都市計画時に省エネ、創エネ、住み替え、異なる年齢層、社会層の混住など持続可能な発展のために必要なコンセプトを作成。ニセコ町が抱える現状の課題を解決し、将来的にも豊かな生活が持続する住宅地を造ります。

(パンフ表面のSDGsページをご参照下さい)

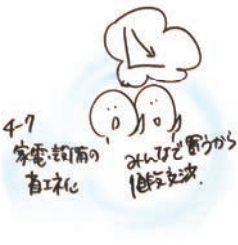
地域エネルギー会社の設立

町内の主要施設(公共施設等)に対する電力供給・熱供給を担う地域エネルギー会社を設立し、域内の経済循環を高めます。



再生可能エネルギーを適切に促進

一定規模以上の再エネ設備について、届出等を義務化し、再エネ乱開発を抑制します。また、町民主導型事業を認定・優遇することで、町民出資の再エネを促進します。



省エネ家電への交換

町民参加型で、古い冷蔵庫、効率の悪い電気温水器などの家電・設備を迅速に交換。町民の可処分所得の向上を目指します。



新税等の導入(仮名:宿泊税)

まちの半分近くのCO2を排出している宿泊施設を対象に新たな税を設け、その財源を宿泊施設の省エネ投資に使い、中期的な経営環境の改善、宿泊客の滞在の快適性の向上を図ります。

イラスト ©牧原ゆりえ